

社協だより 萩

2026
4 / 1
Vol. 111



赤い羽根共同募金の配分により、発行しています。



つばき交流食堂やっちょる会

令和8年度「こどもまんなか 児童福祉週間」標語

いこうぜ！みんな キラキラのあしたへ ゴゴゴゴ！

こどもや家庭、こどもの健やかな成長について国民全体で考えることを目的に、毎年5月5日の「こどもの日」から1週間を「こどもまんなか 児童福祉週間」と定められています。

年4回、椿西小学校で開催されている「つばき交流食堂」は、地域住民有志による「つばき交流食堂やっちょる会」の皆さんが運営され、お腹いっぱい、笑顔いっぱいの温かな多世代交流の場となっています。

地域でこどもたちの明るい未来を支え、こどもたちからは元気をもろう相互の支えあい、地域全体を元気にする原動力となっています。



目次

- P1 つばき交流食堂
- P2 会長あいさつ、令和8年度事業計画、予算、令和9年度共同募金助成
- P3 善意銀行、お知らせ
- P4 お宝リレー、地域を支える多様な助成のチカラ

新年度あいさつ

世界を見ますと非常に不安定な状況にあります。今後の国際情勢が気になるところです。

国内では、昨年日本初の女性首相が誕生し、年明けの総選挙において圧倒的多数の与党勢力が構成され、安定した政権運営が望めます。

萩市においては、人口減少、少子高齢化、核家族化の進行、価値観の多様化、地域経済の変化、社会の担い手不足により地域の支えあい機能が困難な状況になっています。

日本人の大切な価値観に、「困った人がいたらみんなで助け合う」があると思います。今の「ふるさと萩」があるのはこうした先人の心が培ったものです。福祉環境の大きく変わる中、萩市や地区社協、ボランティア団体など関係機関と連携を図りながら、多くの福祉課題に取り組んでいきます。本年度も皆さんのご支援ご協力をよろしくお願いたします。



萩市社会福祉協議会
会長 小林 正史

令和8年度 事業計画

■基本方針

令和8年度は、第2次萩市地域福祉活動計画の中間見直しの年にあたり、現状把握と課題抽出を行い、これまでの活動が十分に機能しているかを検証し、残り期間の方向性を適切に修正する重要な節目となります。

地域に存在する力を最大限に活かし、住民同士のつながりを深めることで、身近な困りごとに気づき、支え合える地域づくりを推進します。

地域共生社会の実現に向け、協働の場づくりや情報共有の仕組みを整え、誰もが安心して暮らし続けられる地域の実現を目指します。

これらの取組を着実に進めるため、組織機能の強化や人材育成にも継続して取り組み、地域福祉の推進役としての役割を果たしていきます。

■重点項目

1. 財政基盤の安定・強化
2. 萩市地域福祉活動計画に基づく地域福祉活動の推進
3. 包括的な支援体制整備の推進・確立
4. 地域に密着した保育の展開
5. 適切な介護・生活支援サービス事業の運営

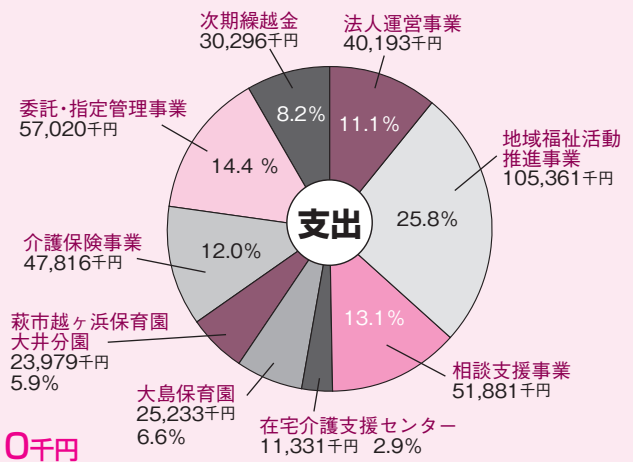
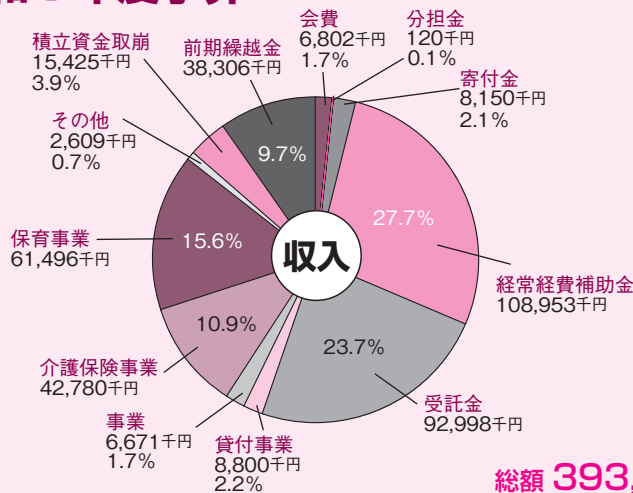


ふれあい・いきいきサロン
“越ヶ浜 仲よし会”



災害ボランティア講座
“床下の確認”

令和8年度予算



令和8年度共同募金による
令和9年度助成を
希望される方へ

●対象団体 社会福祉法人、NPO法人、地域活動グループ等
●申請期間 令和8年4月1日から令和8年5月31日まで
詳しくは萩市共同募金委員会(社協)にお問い合わせください。
助成要綱はこちらからご確認ください▶



善意銀行 ありがとうございます

寄付者の承認を得たもののみを掲載しています。※令和8年1月1日～令和8年2月28日受付分（敬称略）

香典返し・玉串料返し・花料返し

氏名	住所	備考	金額
萩			
匿名			10,000円
田中 覚	赤穂瀬前	父/忠	金一封
渡邊 歳長	大井坂本	母/アサ子	金一封
田村 文治	椿河内	父/孝雄	金一封
田村 寛巳	平安古	父/悟	金一封
杉山 公祐	椿東船津	父/圭佑	金一封
石丸 敏之	萩市大字椿	母/恒代	100,000円
三戸 進	恵美須町の1	母/ナツエ	金一封
西村 愛子	椿	夫/保	金一封
田万川			
波田ミツノ	弁天	夫/音一	金一封
伊藤 義彦	小川2区	姉/裕子	金一封
右田 淳	小川21区	母/隆子	金一封
須佐			
青木 晴美	青葉台	夫/正喜	金一封

氏名	住所	備考	金額
むつみ			
田島 健一	鈴倉	母/泰子	金一封
田村 喜男	花見	母/タミエ	金一封
福栄			
山根 昌浩	榎屋	父/義雄	金一封
大田 秀昭	堂ヶ迫	父/隆美	金一封
世良 栄規	紫福市	父/嘉明	金一封
服部登美枝	平蕨	夫/義登	金一封
川上			
藤山 邦良	白上	母/照子	金一封
旭			
安藤 禎子	明木上市	長男/則孝	金一封
原 秀子	下横瀬	夫/博範	金一封
和木 敏子	矢代	夫/薫	金一封

一般寄付

氏名	住所	備考	金額
萩			
ささえあいみずぐるま	江向4区	社会福祉へ	8,549円
(有)アイフィット山口	山口市平井	社会福祉へ	10,000円

氏名	住所	備考	金額
むつみ			
こぶしの会	鈴倉	社会福祉へ	5,374円

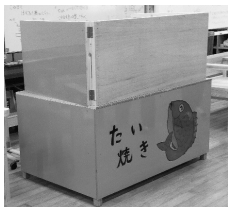
※善意銀行は地域福祉活動推進の貴重な財源になっています。どうかご協力ください。

本会の寄付は、確定申告により税金の控除が受けられます。

(香典返し・一般寄付合計 30件 878,969円)

物品寄付

紙オムツ、パッド



山口県立萩商工高等学校電気・建築科の課題研究「技術ボランティア班」の皆様が創意工夫をこらして制作された「たい焼き機用組立式台・風よけかこい」を本会にご寄付いただきました。



山口県農業協同組合様が「ヤングケアラーの支援」のため、県産農産物を活用した募金活動をされ、萩市共同募金委員会（事務局：萩市社協）に7万円のご寄付をいただきました。

お知らせ

交流カフェ行事 「己書体験会～暑中見舞い編～」

筆ペンを使って楽しく自分だけの「書」を描いてみませんか？ぜひお誘いあわせの上、ご参加ください。

日時 令和8年6月15日(月)
14:00～15:30

場所 萩市総合福祉センター
2階交流カフェ

講師 浜村 素弘さん(己書はぎ道場)

参加費 100円

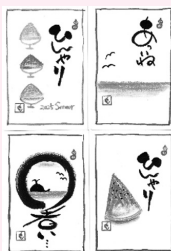
定員 10名(5/29締切)

*希望者多数の場合、初めての参加者

優先(先着順)

申込み 萩市ボランティアセンターへお電話
いただくか(☎0838-22-2289)

二次元コードからお申込みください。



ボランティア活動に関する保険 加入申込受付中

《ボランティア活動保険》

ボランティア活動中に起こる様々な事故に対する備えとして、無償で活動するボランティアの方々のための補償制度です。

補償期間 加入手続き翌日～令和9年3月31日

掛金 基本プラン1名あたり350円

天災・地震補償プラン1名あたり500円

《ボランティア行事用保険》

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行う各種行事において、参加者のケガ及び主催者の賠償責任を補償します。

補償期間 行事開催期間

掛金 1日1名あたり28円から(最低掛金560円より)

*詳しい内容やその他の保険については、萩市ボランティアセンター(☎0838-22-2289)にお問合せいただくか二次元コードからご確認ください。





新企画

お宝リレー

地域で輝く人をリレー方式で紹介し、
人や社協との新たなつながりを目指します。

旭

山口住みます芸人
やっています！



No.1

ふるぼん

山口県が生んだスーパースターふるぼんです。幼少期を過ごした佐々並がぶち好きで、僕の笑いで人と町を元気にできたらとイベントや「ただいま、田んぼ。～僕の故郷は萩市の山奥～」と題して講演活動も行っています。

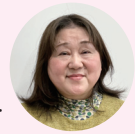
また、佐々並地区の老人クラブ、寿木工クラブの活動にも参加し、重たい丸太を扱う作業も、ご年配の？先輩方と共にヒューヒュー言いながら頑張ってます！（笑）さらば応援隊の和太鼓クラブの練習もしています。去年は、おやじに教わりながら、米作りに初挑戦。農業の大変さ、自然の力、鳥獣被害も学び、「わな猟免許」を取得しました。

僕のスーパースターとしての地域活動をこれからも応援よろしく！



萩

つばき交流食堂で広がる、
つながりと元気の輪。



No.2

藤堂 静子

退職後に声をかけてもらい、つばき交流食堂で調理ボランティアをして7年！「学校給食調理員の経験を活かせるよ。」と仲間を増やしています。シニア世代が社会と関われば、元気が湧いて、達成感も得られます。活動後に「楽しかったね。またね！」と笑顔があふれ、家にじっとして居るのは勿体ないと感じます。ケガなく、楽しくをモットーにボランティアの輪をどんどん広げたいと思っています。一人ではできないことも、仲間がいればどんなこともチャレンジできます。

つばき交流食堂では、2月に初めて150名の参加があり、子ども達が誘い合ってきたことが嬉しかったです。安心できる学校を会場にすることができ、感謝しています。

交流食堂にぜひお越しください。ボランティアスタッフも募集しています！



地域を支える、多様な助成のチカラ

地域では、行政機関や民間財団、企業など、社協以外にも多様な団体が助成制度を設け、地域福祉活動を支援しています。

ここでは、そうした助成を活用して実施された取り組みをご紹介します。

民間の助成金▶
情報は二次元

コードからご確認ください



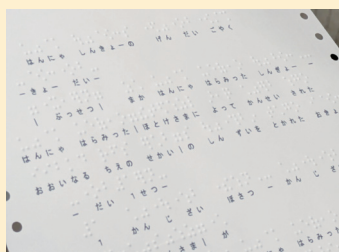
点訳グループ森

助成金を活用して広がる点訳活動

昨年、公益財団法人 木口福祉財団の助成を受けて、念願の点字プリンターを導入しました。

これまで市外に依頼していた点字印刷を自分たちで行えるようになり、視覚に障がいのある方が必要とされる情報をより迅速で正確にお届けできるようになりました。今後はこのプリンターを活用して、学校の点字体験授業で関心を広げるなど、さらなる充実と広がりを目指していきます。

ぜひ、より多くのボランティア団体にさまざまな助成制度を知ってもらい、活動に役立てて欲しいと思います。



現在、私たちは毎月第一日曜日にグループ全体での勉強会を行い、第四金曜日にはパソコン点訳者が集まって研修や情報交換をしています。

点訳は、視覚に障がいのある方へ情報を届ける大切な活動です。一文字一文字に心を込めながら、これからも丁寧な取り組みを続けてまいります。

そして、5月からは市民の皆さまを対象に「点訳体験講座」を開催します。点字に触れ、実際に打ってみる体験を通して、点訳の仲間が増えていくことを願っています。

是非、お問合せ、お申込みください。

萩市ボランティアセンター
(☎0838-22-2289)

点訳体験講座の詳細は
二次元コードからご確認ください▶

